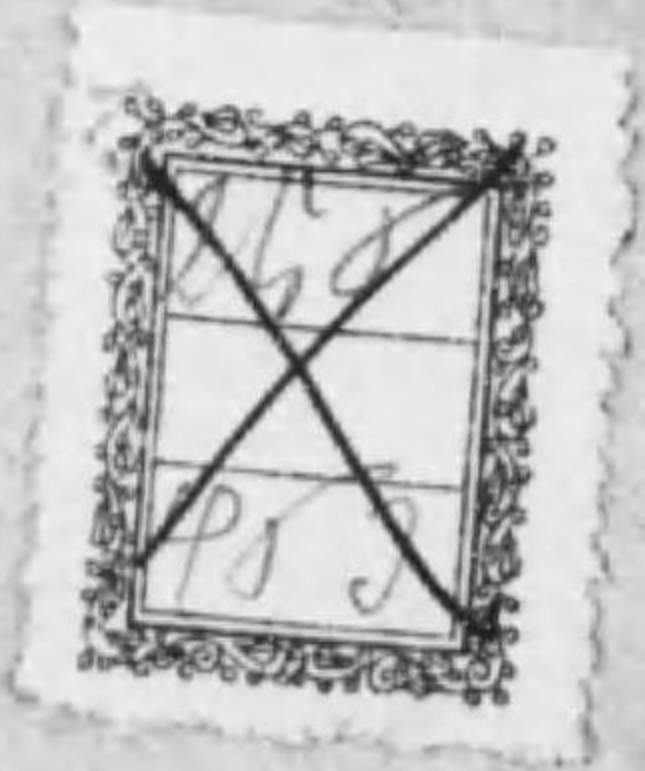


特113

889

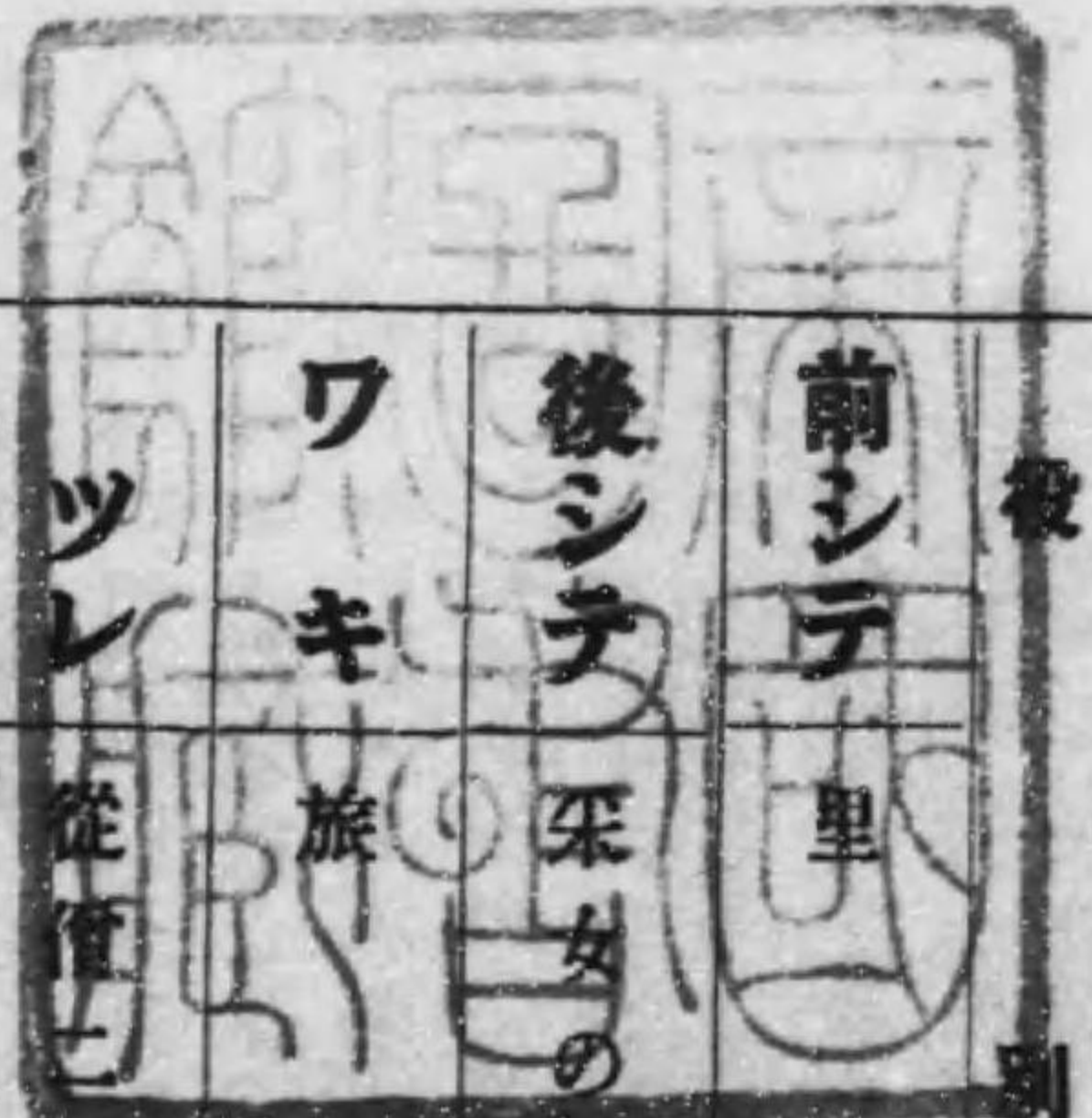


9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9¹⁹/₁₀ 1 2 3 4 5

始



特 113
889



		ツレ	ワキ	後シテ	前シテ
		從價	旅	采女の	里
		人	僧	靈	女
		右同票(又無しにも)	着流僧	襟裳 同帯 着附箔 緋大口 長絹 腰帶 扇	〔面〕増又小面にも(前後とも) 襟裳 同帯 着附箔 唐織 着流し 木の葉 扇
目	番	三	類別	良奈國和大	所
		月			季

采女

内之部卷之五ノ三

采女一



解説

ワキ、同ツレ二人と名宜留にて出で、舞臺に入り。
ワキ名宜留 『是は諸國一見の僧にて候』 と、誦ふ。道行、着キ濟み、三人ともワキ座に行き座着く。

シテ、次第にて出で、舞臺に入り誦ふ。

シテ次郎 『宮路たゞしき春日野の』 此處は納めて誦ふべし。

ワキ 『いかには成女性に尋申べき事の候』 此詞はシテへかゝり誦ふ。

シテ次郎 『抑當社と申すは』 此處は改めて誦ふ。

初回は受けて誦ふ。

地同 『影たのみおはしませ』 此處氣を變へ誦ふべし。以下シテに形あれば、見計ひ誦ふ。

シテ次郎 『あらかねの其はじめ』 此詞はワキへかゝり誦ふべし、以下懸合宜しくありて、

シテ次郎 『いかに申候』 此詞はワキへかゝり誦ふべし、以下懸合宜しくありて、

シテ次郎 『むかし采女と申し、人』 と、改めて誦ふ。 此地は納めて誦ふ。此一段誦ひ方心得あり。口傳。

地九 『吾妹子がねくたれ髪を猿澤の』 中入、間濟み、ワキ待誦、待誦濟み、

一聲にて後シテ出で、舞臺に入り誦ふ。

シテ次郎 『有難や妙なる法をうるなるも』 此處ハツキリ誦ふべし。此懸合宜しくありて、

地十一 『ましてや人間に於てをや』 と、少しかゝりめに誦ふ。

ク十一 『實にや古へに奈良の都の……』 は、打掛を聞いて誦ふ。

クセ クセはシテに形種々あれば見計ひ誦ふ。

ク十四 『月になけ』 の後、序ノ舞、舞ノ留め、シテ又 『月になけ』 と誦ふ。

ク十五 『萬代と、限らじものを』 此處は離れて誦ふ。

ク十六 『四海浪靜かなり』 此處の合方、習ひ、口傳。

ク十七 『猿澤の池の面』 此處改めて誦ふべし。以下シテに形種々あれば見計ひ誦ふべきなり。

宗女

屏

是ハ諸國ニ見レ傳ルル我々の
ほひおもしろく。洛陽乃寺社
残あゝねづゝ廻づして又をより
南都ふまゝにやとらふサレ上ニハ一法を
やまの十日餘りの花の都を

宗

一

孫うぶをかみせのほろほろしと
みつにはりていたるを下す
たがめの都を下す
いはるあのぬれ
能くまのまの情の実を
まのけのたの乃の井を
手のはのてのてのてのて

宮路

かのらのをたくはらのあのく
宮路のまのまのまのまのま
寺のまのまのまのまのまの更に
蘭の夜のまのまのまのまのまのまの
のらのまのまのまのまのま
のらのまのまのまのまのま
のらのまのまのまのまのま

井

二

勝つと枝の本はふるふと漏れぬ
神ははるる物ちかへんか思
月夜の花の海へ
ささやきとささやきとささやきと
接する桜の宮なる庭
ささやきとささやきとささやきと

ささやきとささやきとささやきと
ささやきとささやきとささやきと
ささやきとささやきとささやきと

ささやきとささやきとささやきと
ささやきとささやきとささやきと
ささやきとささやきとささやきと
ささやきとささやきとささやきと

... 園に... 花を...
... 流布...
... 書...
... 今...
... 大...
... 花...

... 花...
... 園...
... 流布...
... 書...
... 今...
... 大...
... 花...

林

林

精進のしるしに...
 のしるしに...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

#

#

大いに好むはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは

昔の如くはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは
 たしむるはたしむるはたしむるはたしむるは

一いこゝろ花鳥はなむとてたけ
一ほむは花鳥のさかむらじは
一うらのまゝに折るにまめあ
一にさむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは

一いこゝろ花鳥の曲拍子とたけ
一なむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは
一はなむらじはなむらじは

※

十一

上
○ 日本に於ける日本の歴史
○ 井ノ口島 大津に於ける
○ 代々の歴史
○ 京都の歴史
○ 松の歴史

ていつまでも歴史を研究して
○ 大津に於ける歴史
○ 京都の歴史
○ 松の歴史

250
480

著作權所有

大正五年四月

四月九日發行

東京市深川區西平野町一番地

著作者 寶生九

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 椀屋謡曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎



Handwritten text in cursive style, likely a dedication or preface. The text is written vertically from right to left. It begins with characters that appear to be '乃由' (Nayū) and continues with several lines of calligraphy. The text is somewhat difficult to decipher due to the cursive style but seems to be a personal message or a note related to the book's publication.

終

